

- 1 以下を日本語に翻訳しなさい。
(下線を引いた語は、翻訳せず、原語のまま表記して結構です)

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

(出典: Schirn Kunsthalle, *Peace*, Schirn Kunsthalle, 2017, p.1.)

- 2 以下を日本語に翻訳しなさい。
(下線を引いた語は、翻訳せず、原語のまま表記して結構です)

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

topsy-turvy: 逆さまの、めちやくちやの.

grotesques: グロテスク

drolleries: おどけたしぐさ、漫談、滑稽

(出典: Ernst Gombrich, *The Sense of Order: A Study in the Psychology of Decorative Art*, Cornell University Press, 1979, p.251)

3 以下を日本語に翻訳しなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

tsujigahana: 辻が花

Itchiku: 一竹

Itchikuzome ('Itchiku Dyeing'): 一竹染

cachet: 良質の印、良質の特徴

harkens back to: 思い出させる

(出典: Terry Milhaupt, *Kimono: A Modern History*, Reaktion Books Ltd, 2014, p.219)

2018 年度 京都市立芸術大学美術研究科
第二外国語（芸術学）フランス語入学試験

以下の 1～2 の仏文を和訳しなさい。（括弧内の出典については和訳不要）。

1)

この問題は著作権法上の関係により，出典のみを記載しています。

(I. Richefort, *Peintre à Paris au XVIIe siècle*, Paris, 1998, p.94.)

2)

この問題は著作権法上の関係により，出典のみを記載しています。

(M. Seuphor, *L'Art abstrait : Ses origines*, Paris, 1949, pp.12-13.)

平成三十年度（二〇一八年度）

京都市立芸術大学大学院美術研究科（修士課程） 入学試験問題

芸術学・第二外国語 中国語（含漢文）

問題 1

別紙問題文①を、現代日本語に訳しなさい。（配点 60 点）

問題 2

別紙問題文②の大意を、現代日本語で書きなさい。（配点 40 点）

※解答用紙の使用方向は、縦書きでも横書きでもよい。裏面も使用してよい。足りない場合は追加を請求すること。

出典

①呉中傑主編『中国古代審美文化論』第二卷、第五章 自然…審美文化的独特視角より「世俗文化中的自然」（上海古籍出版社、二〇〇三年）二五〇～二五一頁。

②宋『宣和画譜』卷十二（画史叢書本）。

別紙

問題文①

この問題は著作権法上の関係により、
出典のみを記載しています。

問題文②

日本國、古倭奴國也、自以近日所出、故改之。有畫不知姓名、傳寫其國風物山水小景、設色甚重、多用金碧、考其真、未必有此、第欲綵繪粲然、以取觀美也。然因以見殊方異域、人物風俗、又轡陬夷貊、非禮義之地、而能留意繪事、亦可尚也。抑又見華夏之文明、有以漸被、豈復較其工拙耶。舊有日本國官告傳至於中州、比之海外他國、已自不同、宜其有此。太平興國中、日本僧與其徒五六人、附商舶而至、不通華語、問其風土、則書以對、書以隸爲法、其言大率以中州爲楷式。其後再遣弟子奉表稱賀、進金麈硯、鹿毛筆、倭畫屏風。今御府所藏三：

海山風景圖一

風俗圖二

平成三十年度（二〇十八年度）

京都市立芸術大学大学院（修士課程） 美術研究科 入学試験問題

芸術学・第二外国語（古文書）

問題 1

別紙問題文①・②について。

漢字は新字体に、変体仮名は現行のひらがなに改めて全文を書きなさい。
改行は原文の通りにすること。

問題 2

①を現代語訳しなさい。

※解答用紙は縦書きで使用するすること。

問題の番号と問題文の番号を明記すること。

解答用紙は裏面も使用できる。足りない場合は追加を請求すること。

出典

① 星光寺縁起絵巻

② 『画図百花鳥』

星光寺縁起卷上

夫以當寺、去寛善二年三月廿山城守軍
朝長資親先妣幽霊追福のため三間四
面十二角の佛図と建立し、等身の地
蔵菩薩の座像一軀并に星宿十二神
の安置を了り、また彼星宿のふれとち
冥道の元始泰山に本地を有する星亮
寺と号す識よりわづかゝる粗い本
尊に由来とありにあり、備を願う諸
ていつを東山別業一の古像の彫
刻の由緒とす、次述立し年記も不奇
當凡倫の功ふれをも、殆昆首れとす
ともいふ、彼像と修復し、よりくは
所を宗教したまぬ、なりとす

法印探幽言の筆端を
 天下の能く上る王公大人
 より士農工商市に石う
 わら金粒をもせしうの名
 ありきりもつた事か一茶
 やゝなへたる詩あるふ
 こけに能偕の句とて入
 物にありあるを清なる
 を粒あるを穢あはれそ
 狂うる忘なくさわりち
 さゝらよ秋の光にあらわ
 夢より鳥をあはれむこと
 あはれなり少くもあは
 れるものいひくむ入
 ばもやとまは陣子にせ
 まれてはるあはれ白き
 出づれば